

主 題：イエスを信じて救われる
聖書箇所：マタイの福音書 16章24節

「イエスを信じて救われる」、それが今日のテーマです。マタイの福音書16章24節のみことばを見ると、最初に「それから、イエスは弟子たちに言われた。」とあります。この後、私たちが見ていくのは、主イエス・キリストが人々に救いのメッセージを語っているところです。主イエス・キリストは人々に、どのようにすれば私たちの罪が赦されるのか？救いのメッセージを語っています。しかし、それを考えると不思議に思いませんか？なぜ、イエスは弟子たちに救いのメッセージを語られたのでしょうか？というのは、「弟子たち」と聞くと私たちは「救われている人たち、信者」と考えるからです。

☆イエスが語った救いのメッセージ

A. 弟子

1. その意味

その一つの例は、ヨハネの福音書9章に書かれている全盲の男をイエスが癒したときです。そのことを思い出してください。イエスはこの生まれつきの盲人を癒されました。しかし、ユダヤ人たち、特に、その中でもパリサイ人たち、宗教家たち、彼らは根掘り葉掘りこの人物に質問をします。「いったい、どのようにして目が見えるようになったのか？いったい、その人物はだれなのか？」と、イエスを指して非難する口実を見つけようとするのです。おもしろい会話がなされています。26節「そこで彼らは言った。「あの人はおまえに何をしたのか。どのようにしてその目をあけたのか。」と、彼らがこのように質問した時に、目が癒されたこの人物はこのように言います。27節「…「もうお話ししたのですが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」と。それを聞いて当然、彼らはそれを否定し「我々はモーセの弟子だ」と言っています。ですから、確かに、「弟子」ということばを見る時に、私たちはそれがイエス・キリストの救いに与っている人たち、救われた人々を指すと見ます。でも、実際はそれだけに限定されません。

実際に辞書を見ると、「リーダーの教えや命令を堅く守る」という意味で、「だれかに従う者になる、だれかの門弟、または弟子になる」とあります。一人のリーダーがいて、その人の教えに従っていこうとする、そのような人たちのことも「弟子」というのです。ですから、必ずしも、主イエス・キリストを信じた者たち＝弟子ではないということです。すばらしいことを教える人がいて、そのリーダーに従っていこうとする、それも弟子です。だから「弟子」と言われても、いろんな人たちがいたということ、まず、私たちは覚えておきたいです。

実は、この24節で「イエスは弟子たちに言われた。」と書かれていますが、この並行箇所はマルコの福音書8章に出て来ます。そこを見ると、マタイの福音書に記されていないことがここに記されています。マルコ8：34「それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。…」、イエスは弟子たちにお語りになったのですが、弟子たちといっしょに群衆がいたという状況です。だから、救いのメッセージをなさっているのです。

2. 問題点

もう一つは、弟子たちの中に本物でない弟子たちがいたということです。弟子たちの中に本物の弟子と、そうでない偽りの弟子が混在していたということです。なぜ、そう言い切れるのか？ヨハネの福音書6章に、そのことがイエスによって語られています。

1) それぞれの特徴

主イエスが「わたしは天から下って来たパンです。このパンを食べる者は永遠に生きています。」と言われた時に、大きく分けて二つの反応がありました。弟子たちの間に異なる反応が生じたのです。60-66節には、弟子だと言ってはいるけれども、本当の弟子ではなかった人々の応答が記されていて、そして、67-69節を見ると、ここには本当に救われている弟子たちの応答が記されています。

(1) 偽物の弟子 ヨハネ6：60-66

ここには偽りの弟子たちのことが記されています。彼らの特徴は、

・主イエスのことばを信じない

60節「そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」、つまり、偽りの弟子たちはイエスの話を聞いた時にそれを信じないでつぶやくのです。このような応答をしています。

・主イエスに従うのを止めた

もう一つ、66節に「こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。」とあり、偽りの弟子たちはイエスの話を聞いて「そんなことは信じられない。」と言ってイエスから離れて行ったと言います。これが彼らの応答だったのです。この応答が表わしているのは、彼らは本物の弟子ではない、救われていないということです。

(2) 本物の弟子 6:67-69

彼らの特徴は？

・主イエスを信じている

67-69節「そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたいと思うのではないでしょう。」:68すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。:69 私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」、彼らはイエスのことばを否定するのではなく、そのおことばを受け入れるだけでなく、イエス・キリストとともに歩み続けるという選択をしています。

ですから、こうして私たちは、弟子たちの中に救いに与っていない弟子たちと、救いに与っている弟子たちを見る訳です。今見て来たように大切なことは、ヨハネ8章に進むと、本物の弟子かどうかを見分けることができるということが教えられています。救いに与っているどうか、救われているかどうかを見分けることができるのです。イエスご自身が言われています。ヨハネ8:47「神から出た者は、神のことばに聞き従います。…」、「神から出た者」、つまり、クリスチャン、救いに与っている者です。本物の弟子のことです。その人たちは神のことばに聞き従うと言うのです。神が言われることに従っていこうとする、それが救われている人たち、本物の弟子の特徴だと言っているのです。「ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」と、イエスはこのようにはっきりと、救いに与っている者たちとそうでない者たちを区別されたのです。

しかし、確かに、イエスの周りにはイエスに従って来た弟子たちがたくさんいました。でも、今見て来たように、その弟子たちの中に本当の弟子とそうでない弟子がいました。彼らは主イエスに従っていたものの、異なった動機がありました。それは「自分の得のために従った者たち」と、「真理だから従った者たち」の違いです。先の人たちはなぜイエスの周りに集まって来たのでしょうか？イエスとともにいるなら自分の欲しい物が手に入るからです。自分にとって得だと彼らは思ったので、イエスとともに歩むことを選択したのです。

ヨハネ6章を見てください。群衆がイエスを捜しています。そして、イエスを見つけたとき、このように言っています。24-25節「群衆は、イエスがそこにおられず、弟子たちもいないことを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに来た。:25そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。「先生。いつここにおいでになりましたか。」、26節「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。」とイエスはこのように答えています。というのは、この6章の中には男たちだけで五千人の食事が満たされたという出来事が記されています。その奇蹟を経験した人たちが思ったのは、「このイエスといっしょにいたら食えばぐれることがない」と、そのように自分にとって得だという思いから、イエス・キリストに従って行こうとする人がいた、そのことを聖書は明らかに教えています。

もう少し、イエスがマタイ16章で話しておられるその状況を描いてみてください。そこに、イエスとイエスを信じる弟子たちがともにいました。同時に、イエスを信じていない弟子たちもいました。そしてまた、そこまで熱心に従っていない群衆がいたのです。これらの人々に対してイエス・キリストは、私たちが今日学んでいこうとしているメッセージを伝えたのです。どのようなメッセージでしょう？

B. 本物の弟子

本物の弟子になるためには、次の三つの決心が必要だということです。もちろん、今から見ていくことは、このようなことを行なうことによって救われるというメッセージではありません。私たちは主イエス・キリストを信じる信仰によって救われます。行ないによるものではありません。しかし、私たちが信じるときに、何を信じるかということは大切です。何でもいいものではありません。そのことをイエスはここで明確に教えてくださっています。私たちがイエスの本当の弟子になるなら、本当に救いに与るなら、次のことを理解し、次の決心をしていなければいけないと、そのことがここに記されています。本物の弟子に欠くことのできない三つの決心です。それらを見ていきましょう。

1. 自分を捨てる

24節に「…だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、…」とあります。主イエス・キリストに従っていきたくないなら、主イエスの本当の弟子になりたいなら、つまり、救いに与りたいなら、あなたは「自分を捨てなさい」と言うのです。「自分を捨てる」とは「自己中心の生活から神中心の生き方へ変わる決心」のことです。というのは、私たちはみな、自分中心に生きているからです。そのような自分を捨てることです。実は、この「捨てる」と訳されている動詞は新約聖書の中に11回出て来ます。2回を除いてすべて別の訳がされています。2回とは、このマタイ16:24と先程言った並行箇所であるマルコ8:34です。そこには「捨てる」と訳されていますが、それ以外のところでは「知らない」と訳されています。

どこでそのように使われているのか？皆さんよくご存じのところでは、イエスはペテロに対してこのように言われました。マタイ26:34-35「イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」:35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。」。この「知らない」ということばが、ここで使われているギリシャ語の「捨てる」ということばと同じなのです。（並行箇所、マルコ14:30-31、ルカ22:34）、そして、マタイ26:75「そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そして、彼は出て行って、激しく泣いた。」、（並行箇所、マルコ14:72、ルカ22:61）。ペテロは「あなたを知らないなどとは決して申しません。」と言いましたが、その「知らない」ということばです。ルカ12:9には「しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。」とあります。私たちはこのペテロの姿から学ぶことができます。

では、この「知らない」また「捨てる」と訳されていることばはどのような意味でしょうか？「関係がない、拒絶する、関係を断つ、断行する」です。ですから、ここでイエスが言われたことは「あなたは自分自身との関係を断つことができますか？」です。そのことを命じられたのです。先に言った通り、私たちはみな例外なく生まれながらに自分中心の考えを持ち、そのように生きて来ました。罪の特徴とはそうです。罪の特徴は自分中心です。神を第一にして神を最も優先して神を最も愛して生きるよりも、神以外のこと、自分を第一として自分を愛して私たちは生きて来ました。そのような今までの自分の生き方、そのような自分自身とあなたは決別できるかということです。

私たちは生まれながらに自分を喜ばせること、自分を満足させること、自分が幸せになること、自分の夢や野望を叶えること、自分が人々から認められること、誉められること、自分がこの世の成功者になること、人から羨まれるような生活をする、私たちはそのような物を何とか手に入れたいと一生懸命生きて来ました。また、今もそのように生きているかもしれません。そのような自分を中心に物事を見、考える生き方です。その生き方を止めて、神を中心とした生活を継続的にこなしていくという、その選択をなささいというのが最初の命令です。

最初の決心としてイエスが挙げたのは、あなたはこれまでの神を無視した神に逆らった罪の生活を止める決心ができますか？ということです。そのような自分と決別して「わたしについて来るか？」と問われたのです。だから、私たちはこの最初のイエスの命令を見る時に考えなければいけないことは、これまで自分の考え、自分の思いや自分の経験、知識などに従って生きていたけれど、そのような神がお喜びにならない生き方を止めて、今度は神のみこころを求め神が望んでおられることを考えて、そのことを選択して生きていこうという決心をするということです。

イエスが敢えて、このことを話されたのは、前回に見たペテロとのやり取りが関係していると思いませんか？ペテロは弟子たちを代表して「あなたは生ける神の御子キリストです。」と言いました。その後、イエスとペテロのやり取りが21節から書かれています。イエスがその後、自分は十字架に掛けられ、その後、三日後によみがえるということをお話されました。すると、ペテロはこのように言いました。22節「するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」。そのときにイエスは言われました。23節「しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と。ペテロこそ神のみこころを優先して生きているはずなのに、残念ながら、このような誘惑に負けるのです。神のみこころよりも自分の考えを選択しようとしたのです。だから、イエスは「あなたはわたしの計画を邪魔する者だ」と言われたのです。

残念ながら、このような誘惑は本物の弟子のうちにもあるのです。救われておられる皆さんも、神のみこころに従っていこう、神が喜ばれることを一生懸命やっけていこう、自分中心の生き方から離れて神を第一に生きていこうと、そのように選択をして生きていても、いろんな誘惑に負けることが多々ある

はずです。自分の考えに沿ってしまったり、自分の思いで行動してしまったりと。でも、感謝なことに、そこには赦しがあります。ペテロが赦されたように、私たちも赦され続けていきます。でも、イエスを信じておられる皆さん、是非もう一度思い出してください。あなたも私もこの決心をしたのです。「あなたに逆らう生き方はもういいです。自分中心に生きる生き方はもういいです。その生き方は私を永遠の地獄へと導いていました。そういう間違っただけの生き方はもういいです。私はあなたに従っていきます。あなたを第一としてあなたを愛してあなたに従っていきます。」と、その選択をなさった皆さん、どうぞ、もう一度その選択を思い出してください。本物の弟子になるために神が問われたことは、「あなたは自分を捨てることができるか？これまでの誤った神を無視した自分中心のその生き方を捨てることができるか？そして、わたしの前に正しい歩みをするその決心をあなたはできるか？」です。

2. 自分の十字架を負う

24節に続いて「自分の十字架を負い、」とあります。これは「主のために喜んで犠牲を払う決心」です。この「負う」という動詞は「激しい迫害に、それがたとえ死に至るものであったとしても、耐えるように備えなさい」という意味があります。ですから、二つ目にイエスが問われたことは「あなたはわたしを信じることによって、困難やいろいろな迫害が出て来るかもしれない。もしかすると、それによってあなたのいのちが奪われてしまうかもしれないけれど、それでもわたしを信じてわたしについて来るか？」です。今、皆さんを見ていて、いったいいつのことなのかは言えませんが、教会の皆さんのいろいろな証を聞いていると、かつて、私たちの国でもそのような福音が語られていたと思いました。信仰者になるということは大変難しいことでした。違いますか？ところが、最近はそのようなメッセージを聞くことがなくなりました。

主イエス・キリストはここで「わたしの弟子になるために、本物の弟子、この救いに与るためにあなたが決心しなければいけないことは、イエス・キリストを信じることによってあなた自身にもたらされるいかなる迫害も困難も、たとえそれが死であっても、わたしを選ぶことだ。」と言われたのです。イエスはこのように言われました。ルカ14：27「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。」と。「神さま、私は喜んであなたに従います。どんな苦しみが伴おうとも、どんな迫害があろうとも、それによってこの地上でのいのちを落とすことになっても、私はあなたに従っていきます。」と。

だから、思いませんか？このみことばの中でペテロが興味深い告白をしています。イエスはペテロにこう言います。ルカ22：31-32「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを妻のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。：32しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と、これからペテロはわたしを否定すると言われたのです。その後、あなたの信仰が罪から堕落から立ち直ったなら、兄弟たちを力づけて上げなさいとそうに言われたとき、ペテロはこう言っています。33節「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」と。

今、私たちが見ていることをここに見ることができませんか？確かに、ペテロは私たちと同じように弱者であることが分かります。もちろん、私たちはそのような目に遭ったことはない、私たちならもっと早くに逃げ出しているかもしれません。でも、ペテロ自身は「イエスさま、もし、私の身に死が訪れようとも私はあなたから離れません。私は喜んで死にます。」とそのような告白をしています。なぜなら、イエスが招かれた時に言われたことは「自分の十字架を負ってわたしについて来なさい」だったからです。ペテロはその覚悟をしていたと思いませんか？今と違って、その時代は大変な迫害がありました。しかし、彼らはその決心をもって、キリストを受け入れキリストに従っていかうとしたのです。

3. 従い続ける

「主への服従の決心」です。今見て来た「捨てる」、「負う」、そして、これから見る「ついて来なさい」というこの三つの動詞は、最初の二つは過去のことです。一度切りのことです。あなたは自分を捨てる決心をし続けていきなさいではありません。「捨てる」決心を一度したのです。十字架を負い続けていくという継続した決心ではありません。十字架を負うという決心を一度するのです。ところが、「ついて来なさい」という動詞は現在形を使っています。そのようにして私たちが歩み続けていくということです。「自分中心の生き方を止めて、神を第一に生きていく」という決心をします。「あなたに従うことによってどんな迫害があっても、どんな苦しみがあっても、たとえそれによって死を経験することがあったとしても私はあなたに従っていきます。自分の十字架を負って生きていきます。」と、その決心を一度します。そして、その後で私たちはこの主に継続して従って行く決心をします。それがこの三つ目に記されていることです。

ですから、ここでは、イエスに服従する生き方、その決心をイエスは問われているのです。でも、これは何も珍しいことではありません。イエスを信じている皆さんはそのようにして生きているはずです。詩篇119：112に「私は、あなたのおきてを行うことに、心を傾けます。いつまでも、終わりまでも。」とあります。ですから、新約の人々だけでないのです。旧約の人々も同じように信じて歩んでいたのです。私たちは神の言われることばに、神の命令に心を傾けていきます。そして、私はそれを行ない続けていきます、終わりまでもと言うのです。旧約であろうと新約であろうと、救いに与った者たちの特徴は、こうして主に従い続けていくということです。主のみこころに従って歩み続けていくということです。主の弟子とは信じることで終わりではありません。服従の生活の始まりです。

この弟子たちはそのように生きていきました。マタイの福音書19：27（並行箇所はマルコ10：28）に「そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」と、ペテロはイエスにこのように言いました。イエスの命令は「わたしに従い続けて来なさい」です。そして、信仰者たちはそのように歩んだのです。主イエス・キリストに従い続けました。そして、このように従い続けるということが、本当に救われている人たちの本当の証拠であることは明らかです。ヨハネ18：37にこのように書かれています。これはピラトとイエス・キリストとの会話です。「そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王のですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりです。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」、「真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」、これが救われている人の特徴です。

救われている人は、神が言われていることに喜んで従っていきこうとします。もちろん、失敗があります。その時は悔い改めてまたそのように歩んでいきこうとする、また失敗したら、悔い改めてそのように生きていきこうとするのです。救われている人たちの心の中には、主に従っていききたいという願いが与えられています。それが救われていることの証拠なのです。でも、イエスはこのマタイ16章で「あなたはわたしに継続してついて来る決心をしますか？あなたはわたしに従順に従って来るという選択をしますか？」と、そのように問われたのです。

今、私たちが見て来たこの三つが本物の弟子になるための決心です。こうして見ていて「イエスさまって厳しいこと、難しいことを言われる」と思われる方もいるでしょう。確かにそうです。でも、こうして見た時に皆さん思いませんか？「あなたは天国と地獄とどちらを選びますか？天国でしょう、では、イエスさまを信じなさい。イエスさまを信じたら神さまはあなたにすばらしい祝福をくださって、この地上の生活においても問題もなく健康で、いろんな必要も与えられて…」と、そのような何かを約束するような救いのメッセージをイエスはお語りになっておられないということが分かります。でも、残念ながら、私たちはそのようなメッセージを聞きます。そうすると、そのようなメッセージを語っている皆さんが考えなければいけないのは、この聖書の箇所をどのように解釈をするかということです。

私たちがみことばが語っていることをそのまま受け止めていくなら、確かに、イエスはこのように言われた。「狭い門から入りなさい」と。でも、残念ながら、私たちの前に語られている福音は「広い門」です。「罪？そのままでもいい。罪を犯したままでもいい。ただイエスさまを信じたらそれでいい」と。もちろん、あなたが完全な人になったから神があなたを受け入れてくれるのではありません。罪を持ったままでイエスの前に救いを求めて出て来るなら、神はあなたを救ってくださるのです。でも、語られているメッセージがいつの間にか「あなたは天国にいきたいのでしょうか？あなたは永遠の祝福が欲しいのでしょうか？それなら、イエスさまを信じなさい。」というメッセージになって、どういう訳かそれがポピュラーになって来ています。でも、聖書を見た時に、イエスはそのようなメッセージを語っておられないし、この国においても、そのようなメッセージは語られていなかったはずで

なぜなら、そのような証をしてくださった聖徒たちが私たちの群れにもたくさんいたからです。厳しい選択でした。イエスが言われたように…。確かに、イエスは難しい、厳しいことを言われていると取ることができます。しかし同時に、これまで持って来たいろんな疑問を、今日のテキストは解消してくれますか？イエスは弟子たちを呼ばれました。「わたしについて来なさい」と。ペテロや兄弟アンデレ、ヨハネやヤコブ、ピリポ、取税人のマタイ、みことばは彼らが主によって召されるその様子を記しています。見ましょう。マタイ4：18-22「:18 イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレををご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」:20 彼らはすぐに網を捨てて従った。:21 そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。:22 彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。」

イエスはこのようにして人々を招かれました。ヨハネの福音書1章にはピリポのことが書かれています。ヨハネ1：43「その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて「わたしに従って来なさい」と言われた。」、もう一箇所、ルカ5：27-28（並行箇所、マタイ9：9-17、マルコ2：14-22）、ここにはマタイのことが書かれています。「この後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい」と言われた。：28するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。」、この人物こそマタイです。皆さんは間違いなく、このような聖書の箇所を見て、イエスが彼らと呼ばれたときに彼らが何もかも捨てて従ったということに驚かれます。なぜなら、この出来事を見て、彼らが私たちが取る行動と全く違う行動を取ったからです。違いますか？私たちなら「ちょっと家族と相談してから…、まず、身辺の片付けをしてから…」と、いろんなことを言うでしょう。そして「その時が来た時にそのような選択をします」と思うでしょう。

だから、その場で彼らが何もかも捨ててイエスに従った様子を見た時に、あれ！？とってしまうのです。私たちが考えなければいけないのは、なぜ彼らがそのような選択をしたのかということです。なぜ彼らがこういう選択を取ったのかです。それは彼らがイエスが言われているメッセージを正しく理解したからです。彼らはイエス・キリストが何を求めておられるのかを分かったのです。今、私たちはマタイ16章からイエスが「自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」と言われたことを見ました。「また来年にします」ということではないのです。「今、それをしなさい」と言われたのです。彼らの応答を見たときに、これこそ主が彼らに求めておられることだと彼らが理解したので、彼らは喜んでそれに従ったのです。だから、私たちが今まで学んで来たことがだんだんつながってきませんか？

なぜ、畑の中に宝を見つけた人は持ち物を売り払ってその畑を買おうとするのでしょうか？なぜ、高価な真珠を見つけた人は、すべてを売り払ってその真珠を買おうとするのでしょうか？そのたとえが教えたことは、主イエス・キリストが語っておられること、あなたの前に提供されているこの救いがどれ程価値あるものかと、そのことに気付いた人たちは喜んですべての物を犠牲にするということです。だから、彼らは主が備えてくださったその救いのすばらしさを覚えて、ありとあらゆるものを犠牲にしてもこの一番価値あるものを手に入れようとしたのです。なぜなら、私たちがどれ程のものを手に入れたとしても、それは私たちに救いをもたらすものではないからです。主イエス・キリストだけです。この救いだけです。イエスが招いてくださったのです。私たちにどうすることもできないこの罪の赦しを、イエスが与えるために招いてくださったのです。それに耳を傾けた時、当然、主が私たちと同じように彼らの心に働き、自分の罪深さを示し、救いが必要であることを悟らせ、そして、救いを示してくださったのです。その時に彼らは、躊躇することなく、この救いを心から受けようとしたのです。この救い主を心から信じ受け入れようとしたのです。

結論

本当の弟子になるにはどうしたらいいのか？神が備えてくださったこのすばらしい救いを頂いて、この救いを持って永遠のいのちを頂いて生きるためにはどうしたらいいのか？今日、私たちはこの三つの大切な決心を見て来ました。あなたはどのようにこの福音をお信じになりましたか？自分の欲しい物を得るためにイエスを選択したのではありませんでした。ちょうど、パンを食べてこの方について行ったらパンを食べ続けることができる、食いはぐれることがないからとついて来た偽りの弟子たちのような歩みをしていませんか？イエスを信じたら天国にいける、だから、私も信じましょうと、そんな思いで自分が弟子だと思いませんか？イエス・キリストの弟子というのは、このみことばが教えてくれたように、自分がこれまで誤った生き方をして来たことに気付き、この神の前に自分中心の罪の生活を止めて神を心から信じようと、その決心をする者たちです。本物の弟子、この救いに与る者たちは、イエス・キリストに従うことによって、どんな問題が生じようと、どんな困難があろうと、たとえ死を経験するようなことがあったとしても、この主イエス・キリストを信じ従っていこうと、そのような決心をする者たちです。この本物の弟子たち、この救いに与る者たちは「この方が真の神であり、この方が私の主人であられる神であるから、私はこの方に従い続けて行こう。」とその決心をする者たちです。

あなたはどうですか？あなたはそのような決心をもって主イエス・キリスト信じましたか？あなたは本物の弟子ですか？それとも弟子と称しながら、実は、まだこの救いに与っていない人でしょうか？

ジェームス・ボイスという一人の有名な牧師がアメリカにいました。かなり前ですが、彼はアメリカの教会の問題点について次のような文書を出しました。「20世紀のキリスト教会のいのちに致命的な欠点が存在する。それは本物の弟子の不足である。本物のクリスチャンにとって弟子となることは、キ

リストに従うためにすべてのことを捨てることを意味している。しかし、今日のクリスチャンと思われる多くの人々にとっては、弟子となることはキリストについての話が長く為されること、また、キリストの名によって為されているはずの熱烈な多くの活動であって、キリスト自身に従うことが実際には非常に少ないのである。それは多くの仲間たちの中に本当のクリスチャンが大変少ないことを意味する。マタイ7章21節が教えるように、『主よ。主よ。』と熱心に主イエスの名前を呼んでいる多くの者たちが、実はクリスチャンではないのである。」と。

皆さん、本当のクリスチャンというのは、このボイス先生が言われたように、キリストについて人々と話すこと、キリストについて多くの話をする、キリストの名によって様々な熱烈な活動をする、ことでもないのです。今の私たちの言い方で言うなら、「イエスさまのことを話しているから、イエスさまのために何かやっているから」…、だから、クリスチャン？そうではないのです。本当のクリスチャンとは、喜んで自分自身のすべてをこの方にささげる決心をした者たちです。そして、それが、この神のことばが私たちに教えてくれていることです。救い主イエス・キリストが、これが本物の弟子となるための大切な決心だと言われました。

あなたはその決心をさないましたか？愛する皆さんがだれ一人として滅びに至ることがないように、そのことを願います。でも、そのためにあなたが立たなければいけないことは、過去の経験でもないし、だれかの言った話でもありません。神のみことばに立つことです。これが神があなたや私に教えてくださっている本物の弟子になるための大切な教えです。

どうぞ、本物の弟子として歩んでいる方は、その通り歩み続けてください。この救いを語ることです。もし、それが定かでない人は、今日、あなたは心からこのみことばに従う決心をして、この救いをご自分のものとしてください。今日、本物の弟子になってください。

《考えましょう》

1. 本物の弟子となるために、主が教えられたことを、あなたのことばで記してください。